

令和5年「市民と議会のわがまちトーク」報告書

開催日時	令和5年4月22日(土) 午前10時から11時30分まで
開催場所	中総合会館 4階ホール
テーマ	地域で活動するスポーツ団体と学校部活動との連携について
参加市民	26人
出席議員	<u>担当委員会：市民文教委員会</u> 野瀬貴則、伊田悦子、杉島久敏、谷川眞司、田畑篤子、福本明日香 <u>サポート委員会：総務消防委員会</u> 西村正之、尾関善之、小西洋一、仲井玲子、松田弘幸、山本治兵衛

内 容

【概要】

中学校の休日の部活動については、地域に移行する方針が国から出され、令和5年度から令和7年度までの3年間は「改革集中期間」として位置づけられ、本市は実践研究のモデル地域として指定され、令和3年度より先行して取り組んでいる。

本格的な休日の運動部活動の段階的な地域移行と地域スポーツ環境の一体的な整備に向け、5つのグループに分かれて意見交換を行った。

中学校の休日の部活動を地域に移行するためには、学校、生徒、保護者、地域それぞれの意思疎通と協力体制が必須であることから、その課題解決策となる案を取りまとめ、最後に各グループから意見交換の内容を発表した。

【各グループの意見交換の内容】

1班

担当議員：(副委員長) 伊田 悦子
市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- 1 指導者への謝礼の問題
- 2 指導体制の問題
- 3 保護者の負担（送迎や財政面）
- 4 継続的・安定的な運用
- 5 周知・理解の問題
- 6 スポーツだけではなく、文化や芸術に係るクラブはどうなるのか
- 7 国の方針が見えてこない（着地点はどこなのか）



【検討事項と対策】

- 1 保護者に周知されていないことから、十分な説明が必要。
- 2 国が着地点を示さないもとの、地域では、理想的な着地点のイメージを共有する必要がある。
- 3 継続的・安定的な運用をするためにも、今後の財源確保が大きな課題。

2班

担当議員：(委員) 杉島 久敏

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- 1 指導者の質と確保
- 2 保護者の負担
- 3 引率責任（保険等）
- 4 部活動と地域スポーツの差異

【検討事項と対策】

- 1 OB・OGや人材登録制度を設ける。また、優れた人材を確保するため、空き家バンクを利用した住居の確保や職業としての地位確保及び収入の安定化を図る仕組みづくりが必要。
- 2 学校部活の延長線と捉え、一部市の負担とする意見もあったが、一定のレベル以上のものを求めるのが子ども個人としての考えであるならば、月謝や指導料の名目で保護者の負担とするべきである。
- 3 指導中の事故等については、保険加入において対応するのがベストと思われる。必要な費用は月謝・指導料の一部を利用し、スポーツ団体として保険加入する。
- 4 部活動はあくまで、体力の向上や友情、礼儀作法といった一般的な常識を習う場であると思われる。それに対し、地域スポーツの位置付けは、部活動における部分を内包しつつ、将来の目標としてのさらなる高みを目指すものであると思われる。

(まとめ)

➤ 全体を通して、2つの課題が見えてきた。

- (1) 1つ目に、指導者の人材確保に関しては、市が全面的に協力する姿勢が求められる。例えば、ボランティアによる指導者確保では行き詰まりが発生する可能性が大きいことから、住居と収入に関してはある程度の保証制度を設けるなどの対策が必要と思われる。
- (2) 2つ目として、オリンピックを目指す、プロ選手を目指すといった具体的な目標を持っている才能豊かな子どもに対して、市がどこまでのサポート体制を持って対応できるかである。予算の確保において、施設の整備や活動資金面のサポートといった課題対策について、市全体で応援できる体制が求められることになるものと思われる。



3班

担当議員：(委員) 田畑 篤子

市民参加者人数：6人

現在、クラブ活動をしている中学1年生から3年生、6人グループでの意見交換。

バレー・剣道・野球。校内のクラブと地域でのクラブ活動のⅡ種。

【出された課題の主なもの】

- 1 担当の先生について



- (1) 経験や知識がない先生が担当のことがある。
- (2) 先生は、忙しくてクラブに顔を出してくれない。出しても短時間のときがある。
- (3) 学校の委員会等昼間にすませてクラブを優先させてほしい。

2 他校や試合等の送迎について

- (1) 送迎の都合がつかず、参加できない生徒がいる。
- (2) 遠方への移動は、交通の手段がなく参加できない。
- (3) 親御さんの協力も行き届かないことがある。

【検討事項と対策】

1 指導者について

- (1) 先生でなくても知識・技術のある方に指導してほしい。
- (2) 必ず毎日来て、見てほしい。
- (3) 自分たちの成長につなげてほしい。
- (4) 先輩や高校生などが参加や指導してくれるのもよい。

2 送迎について

- (1) 練習場所などは遠くない場所で、公共交通が使用できる範囲にしてほしい。
- (2) 親同士で送迎するなど、必ず全員が行けるようにしてほしい。
- (3) 移動手段を確保してほしい。

4班

担当議員：(委員) 谷川 眞司

市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- 1 部活の活動場所の確保
- 2 入学した学校に求める部活がない。マイナー競技の部活がない。
- 3 指導者不足
- 4 部活にはお金がかかる。
- 5 学校部活とクラブチーム（地域部活）があり、教え方が異なる場合もある。



【検討事項と対策】

- 1 体育館等使用は部活優先使用とする。市の施設を部活に無料開放する。
- 2 舞鶴市内全体の部活一覧表のパンフレットを作成する。
- 3 地域指導者確保のために、指導者人材バンクをつくる。指導者試験に5～6万円の経費が必要であり、その費用を公費で負担できないか。
- 4 地域部活団体がNPO法人格を持ち、事業を実施することにより、NPOへの助成金申請ができる。NPOが事業を実施することにより、そこから人件費を捻出する。
部活には、用具代、器具代、遠征費等金がかかり、一定の助成金が必要である。また、最低限の受益者負担も必要と考える。
- 5 部活と地域クラブチームとのさらなる連携が必要。

5班

担当議員：(委員) 福本 明日香
市民参加者人数：5人

【出された課題の主なもの】

- 1 そもそも地域部活移行前の指導者や保護者に事前の全体説明がほしい。アピール不足である。
- 2 地域格差が心配で、子どもたちの受け皿がしっかりあるのかが不安。
- 3 ケガやトラブルの際の金銭の問題や責任はどうなるか不安。
- 4 保護者負担が多くなり、スポーツ離れが心配。
- 5 スポーツに対してのハードルが高くないか心配。



【検討事項と対策】

- 1 移行に関わらず、早期から全体での意見交換の機会が必要。
- 2 地域の格差をなくし、スポーツの種類や場所の選択肢を増やす。
- 3 送迎等だけでも！といった地域の力を借り、「meemo」などいろいろな媒体を利用した取り組みが必要。そうすることで、スポーツに参加しやすい場、触れやすい場をつくる。
- 4 トラブル対策や責任、金銭問題等を市がしっかり検討する。
- 5 みんなで高め合い、スポーツ人口を補うために垣根を越えやすい制度を考えていく。



【意見交換の結果の取り扱い方針】

各班の意見交換会の結果について、委員会で調査・議論を行い、市政への反映に向けて検討していく。